



ダニが媒介する新しい感染症 SFTS（重症熱性血小板減少症候群）

＜保健科学担当＞

2013年1月、国内で初めてSFTS（重症熱性血小板減少症候群）の患者が確認され、5月には徳島県でも患者報告がありました。SFTSは2011年に中国で初めて報告された新しい感染症で、SFTSウイルスを保有するダニ（マダニ類）に咬まれることによって感染します。

ダニの活動は春から秋にかけて活発になります。レジャーや農作業などダニが多く生息する野外での活動が増えるこれからの季節、注意が必要です！

SFTS ウイルスとは

2011年に新しく特定されたウイルスです。ブニヤウイルス科フレボウイルス属に属し、三分節1本鎖RNAを有します。ブニヤウイルス科のウイルスは、酸や熱に弱く、一般的な消毒剤（消毒用アルコールなど）で急速に失活します。

SFTS（重症熱性血小板減少症候群）とは

主な症状：発熱・消化器症状・血小板減少等で、重症化し、死亡することもあります。

潜伏期間：ダニに咬まれてから6日～2週間程度

日本での発生状況

24件。うち死亡例10件（平成25年6月13日現在、過去の遡り調査も含む。）

年齢別：50歳代～90歳代

地域別：主に西日本で発生。

マダニ類は全国に分布しており、全国どこにおいても発生が考えられます。

マダニとは

特徴：固い外皮で覆われており比較的大型です。

家庭内に生息するダニ（食品等に発生するコナダニや

寝具等に発生するヒョウダニなど）とは、種類が異なります。

生息地：主に森林や草地など。市街地周辺でも見られます。



マダニが媒介するその他の感染症

日本紅斑熱、ライム病などたくさん知られています。

その他、ダニの一種であるツツガムシによって媒介されるつつが虫病もあります。

徳島県では日本紅斑熱、つつが虫病は毎年数件程度発生しています。

予防するには

ダニに咬まれないことが重要です。山や草むらなどで活動するときは長そで・長ズボン・長靴など足を完全に覆う靴を着用するなど、肌の露出をできるだけ少なくしましょう。

ダニにかまれたら

できるだけ病院を受診し、ダニを除去してもらいましょう。無理に引き抜こうとすると、マダニの一部が皮膚内に残ってしまうことがあります。

咬まれてからしばらくの期間（数日から2週間程度）は体調の変化に注意し、症状があれば、直ちに病院を受診してください。

詳しくは徳島県感染症情報センターホームページ「ダニによる感染症に注意しましょう」（<http://www.pref.tokushima.jp/docs/2011080300018/>）をご覧ください。